



大分温室協同組合【監理団体・登録支援機関】 （有）植木農園【受入れ先】

- 大分温室協同組合
所在地：大分県大分市
従業員：理事長1名 職員1名
外国人受入実績：中国人延べ約260名（18年間）



理事長の後藤さん（左） 職員の王さん（右）

- （有）植木農園
所在地：大分県大分市
従業員：役員5名、社員4名、
パート・研修生約30名
外国人材（特定技能5名、技能実習6名）
栽培品目：大葉4ha、かいわれ・スプラウト30a、加工食品の販売

外国人材の受入れについて

- 大分温室協同組合の発足の経緯と現在の状況について教えてください。

大分市と中国武漢市が友好都市であった関係から、技能実習制度が出来る前から農業交流の一環として中国人研修生を受入れてきた実績がありました。

2006年に、中国人の技能実習生の受け入れにあたり、大葉農家8名が自ら管理団体となるために当組合（初代理事長：（有）植木農園代表取締役 植木南雄氏）を立ち上げ、技能実習制度を活用した受入れを始めました。

組合発足当時は、技能実習制度についての知識も乏しく、他の監理団体や知り合いの行政書士に尋ねながら運営をしていました。

その後、2020年11月に、特定技能外国人を受入れるために登録支援機関の登録を受け、これまで18年間で延べ約260名の中国人を受入れています。

ただ、最近はコロナの影響等により来日できない者が増えたことなどから、コロナ前（2019年）の58名からかなり減少しましたが、現在は、技能実習生36名、特定技能7名の計43名を4戸の農家で受入れています。

- （有）植木農園での受入れのきっかけや仕事の内容等について教えてください。

2006年に、大分温室協同組合設立をきっかけに外国人材の受け入れを開始しました。当初は、9名でしたが、現在は11名を受入れています。

外国人には、主に大葉の栽培管理、収穫、出荷作業などを任せていますが、みんなまじめで仕事が早いと社内での評判はとても良いです。受入れ前から比べると2倍ほどに拡大できた大葉の生産面積は、外国人のおかげと思っています。

現在、労働力が確保できず生産ができていないほ場が40a程ありますが、今後、外国人の受入数を増やすことで生産可能になればと思っています。



植木さんご夫妻

受入れ農家及び監理団体・登録支援機関としての取組

- (有) 植木農園での外国人材の生活環境等を教えてください。

6人全員が会社の寮に住んでおり、特定技能は1人部屋、技能実習生は2人1部屋としています。(家賃15,000円+光熱費5,000円=20,000円/月)。

母国料理である油を大量に使う中華料理を頻繁に作るので、排気ダクトを設置するなど外国人が快適に暮らせるように配慮しています。

休日は日曜日です。2週間に1回程度、会社の車で買い物に連れて行っています。

また、例年社員旅行を行っていますが、外国人は自国にはない「そうめん流し」に驚いたり、着物の着付け体験を楽しんだりしています。



(有) 植木農園の寮

外国人を受入れた当初は、地域からの偏見もありましたが、その後、あいさつの励行などにより、地域からの信用を得るとともに繋がりも深まっているようです。

また、当地域では高齢化が進んでいることから、若い子達が地域の祭りやイベントに参加することで、地域の活性化に繋がっているのではないかと思います。

- 外国人材からの相談等はどのように対応していますか。

外国人からの仕事やプライベートに関する相談は、日本在住25年になる大分温室協同組合のスタッフの王さんが一手に引き受けています。

時には深夜や休日にも相談があったり、技能試験勉強の指導も行ったり、外国人から頼りにされ、欠かせない存在です。

今後の展開

- 大分温室協同組合の今後の展開や取組について教えてください。

当組合は、農家自身が立ち上げた身近な存在の組合なので、常日頃から受入れ先の農家や外国人の双方とも交流があり、良好な関係が築けていると思っています。

このように良好な関係が築けていることで、技能実習2号を修了した方が、特定技能や一旦帰国後に技能実習3号として、元々の受入れ農家に残ってくれる方が多いようです。

引き続き組合員の意見等を聞きながら外国人材の確保に努めていきたいと思っています。

また、これまでは中国人の受入れを行ってきましたが、賃金の高い都市圏への人材の流出や円安などの社会情勢等を踏まえると、今後は中国以外の国から受入れていくことも検討しなければいけないと考えています。



大葉のパック詰め作業